

■ シンポジウム【市民開放】

8月29日 10:45～15:20 1F 小ホール

ともに創ろう「愛」と「知」のまちづくり

東海地区では全国でもこれまでにない取り組みが行われ、ともに「愛」と「知」にあふれる福祉のまちを創ってきました。本シンポジウムでは、東海地区の福祉のまちづくりに深く携わってきた方々からの連続講演と、東海地区の福祉のまちづくりをリードしてきた3名によるこれまでとこれからのともに創る「愛」と「知」のまちづくりについての鼎談を行います。

プログラム

<午前の部>

開会挨拶 (10:45～10:50)

来賓挨拶 (10:50～10:55)

シンポジウム1 東海地区の福祉のまちづくり ～住・働・遊の視点から～ (10:55～12:45)

講演1 福祉のまちづくりと住宅 (10:55～11:10)

浅井 貴代子氏 (社会福祉法人AJU 自立の家サマリアハウス施設長)

講演2 福祉のまちづくりとトイレ問題 (11:10～11:25)

鈴木 さよ氏 (あいちトイレ研究会)

講演3 福祉の防災のまちづくりと住環境整備 (11:25～11:40)

児玉 道子氏 (わがやネット代表)

講演4 福祉のまちづくりと就労 (11:40～11:55)

青木 邦子氏 (親愛の里そよかぜ施設長)

講演5 福祉のまちづくりと観光振興 (11:55～12:10)

野口 あゆみ氏 (伊勢志摩バリアフリーーツアーセンター事務局長)

講演6 福祉のまちづくりと情報バリアフリー (12:10～12:25)

黒田 和子氏 (NPO法人 愛知県難聴・中途失聴者協会理事長)

質疑応答 (12:25～12:45)

<午後の部>

シンポジウム2 鼎談 ともに創ろう「愛」と「知」のまちづくり (14:00～15:15)

鼎談者 山田昭義氏 (社会福祉法人AJU 自立の家 専務理事)

竹内伝史氏 (日本福祉のまちづくり学会第13回全国大会 大会長、岐阜大学名誉教授)

曾田忠宏氏 (高蔵寺ニュータウン再生市民会議代表、NPO 法人人にやさしいまちづくりネットワーク・東海顧問)

閉会挨拶 (15:15～15:20)

シンポジウム1 東海地区の福祉のまちづくり ～住・働・遊の視点から～

東海地区の福祉のまちづくりに深く携わってきた方々により、「住む」・「働く」・「遊ぶ」などの視点から、福祉のまちづくりに関する連続講演を行います。

○福祉のまちづくりと住宅：浅井 貴代子氏（社会福祉法人A J U自立の家サマリアハウス施設長）

「ノーマライゼーションの社会の実現をめざそう」や、施設や病院からの「地域移行」が謳われて久しいが、障がいを持つ人や高齢者にとって住みやすい住宅供給の計画はなく、その質も問われ、量も提供されていない。重度の障がい者が、自立を目指し、地域で当たり前の生活をするために、住まい探しをし、住宅改造をするそのプロセスと現状には、多くの課題がある。自立生活を目指している福祉ホーム入居者と、既に地域で生活している自立生活体験室ワーキンググループのメンバーとともに、障がいを持つ人の住まい確保状況を調査した報告とリフォームに関する現状の発表を通して、住宅施策への提言とする。

○福祉のまちづくりとトイレ問題：鈴木 さよ氏（あいちトイレ研究会）

近年、公共施設には必ず障がい者用トイレが設置されるようになった。時代の変化とともに目的や対象者が多様化し、その呼称も「多目的トイレ」「ユニバーサルトイレ」「みんなのトイレ」など様々である。一見進化しているように見えるこのトイレ、本当に不可欠な人にとって使いやすくなっているのだろうか。あいちトイレ研究会では、平成21年障がい当事者に対し実際の使い勝手のアンケート調査を行った。その結果を報告するとともに、現状課題および今後のトイレのあり方を提案したい。

○福祉の防災まちづくりと住環境整備：児玉 道子氏（わがやネット代表）

名古屋市の公的機関「なごや福祉用具プラザ」の住宅改修訪問相談員として、介護保険制度を利用した住宅改修の相談を受けている。平成13年度から平成19年度までの相談件数741件の相談記録を分析し課題を抽出した。その結果を踏まえ、課題の概要を報告する。一方、NPO活動として、減災活動「かぐてんぼう隊」の養成と施工を実践している。家具の転倒防止対策の必要性と、見守り支援のきっかけになる活動として、地域福祉活動としての事例を報告する。

○福祉のまちづくりと就労：青木 邦子氏（親愛の里そよかぜ施設長）

先に施行された障害者自立支援法においては就労と社会参加に重きが置かれ、また障がい者雇用に関して国や都道府県は様々な支援制度を打ち出している。しかし、先の見えない不況の中、障がいを持つ人達が不況を理由に解雇されたり就職の機会を失われている状態が続いている。また、企業は不況に加えてうつ病の増加に伴うメンタルヘルスの取り組みなどたくさんの課題を抱えている。今、「企業の社会貢献」という面だけで障がい者雇用を考えるには限界が来ており、企業との間にかなりの温度差も感じられる。企業を含めたネットワークやシステムの構築と地域社会作りの現状と課題について報告する。加えて、経済的な保障の面だけでなく「働く」ことが持つ意味と多様な働き方そして今私たちが出来ることは何かを一緒に考えたい。

○福祉のまちづくりと観光振興：野口 あゆみ氏（伊勢志摩バリアフリーツアーセンター事務局長）

伊勢志摩バリアフリーツアーセンターは、伊勢・鳥羽・志摩におけるバリアフリー対応の観光情報を、身体の不自由な旅行者に案内するとともに、この地域のバリアフリーなおもてなしを、設備面だけでなくソフトにおいても行き届いた観光地に近づけることを目的に設立したNPOである。バリアフリー調査は地元障がい者メンバーが実際に観光施設に行ったり宿泊をしながら行っており、電話やメールによる、旅行の相談や宿泊施設の案内を車いす利用者も含む常勤スタッフが対応している。観光紹介や宿泊案内は、それぞれの旅行者に合わせた「パーソナルバリアフリー基準」方式を採用している。旅行を希望する人の障がいの程度や旅に対する積極度によって、それぞれの希望に近い形での旅行が伊勢志摩で実現できる。本講演ではこれらの取り組みについて紹介する。

○福祉のまちづくりと情報バリアフリー：黒田 和子氏（NPO法人 愛知県難聴・中途失聴者協会 理事長）

外見からは障がいわかりにくい聴覚障がい者は、あらゆる場で音声による情報が入らず、孤立しがちである。「困っている内容」もわかりづらいため、職場、学校、病院、地域、日常生活の場など様々な場に、聴覚障がい者にとってのバリアがあふれていることに、気づいてもらいにくい、という特徴がある。「聴覚障がい＝情報障がい＝コミュニケーション障がい＝関係障がい」とも言われている。会話、放送、テレビ、映画、音楽、警報、アナウンス、生活音、自然界の音・・・世の中に溢れているそれらの音声の内容を、知りたい、知らせてほしい、それが私たち聴覚障がい者の切実な願いである。音声だけでなく、文字、光、振動、補聴援助システムなどを通して、耳の不自由な者にも情報が届き、安心して暮らせる「福祉のまちづくり」を切望している。本講演を通じてこれらの点についてより詳しく意見を述べたい。

シンポジウム2 鼎談 ともに創ろう「愛」と「知」のまちづくり

鼎談者 山田昭義氏（社会福祉法人AJU 自立の家 専務理事）

竹内伝史氏（日本福祉のまちづくり学会第13回全国大会 大会長、岐阜大学名誉教授）

曾田忠宏氏（高蔵寺ニュータウン再生市民会議代表、NPO 法人人にやさしいまちづくりネットワーク・東海顧問）

東海地区の福祉のまちづくりをリードしてきた3名によるこれまでとこれからのともに創る「愛」と「知」のまちづくりについての鼎談を行います。東海地区におけるこれまでの福祉のまちづくりに関する活動の歴史について振り返りつつ、連続講演で話題に挙げられた「住む」・「働く」・「遊ぶ」をテーマに、あるべき「ともに創る「愛」と「知」のまちづくり」について検討を行います。